



2020年度第一四半期

化学の力で未来を今日にする

ZEON

決算報告

日本ゼオン株式会社

2020年7月31日

■ 2020年度Q1 決算のポイント	P.2
■ 同 各事業分野の概況	P.3
■ 同 事業環境（為替・主原料）	P.4
■ 同 業績サマリー	P.5
■ 同 P/Lの概要（セグメント別）	
● エラストマー素材	P.8
● 高機能材料	P.13
● その他	P.19
■ 同 B/Sの概要	P.21
■ 同 C/Fの概要	P.22
■ 2020年度上期業績予想	P.24
■ 今後の対応	P.25

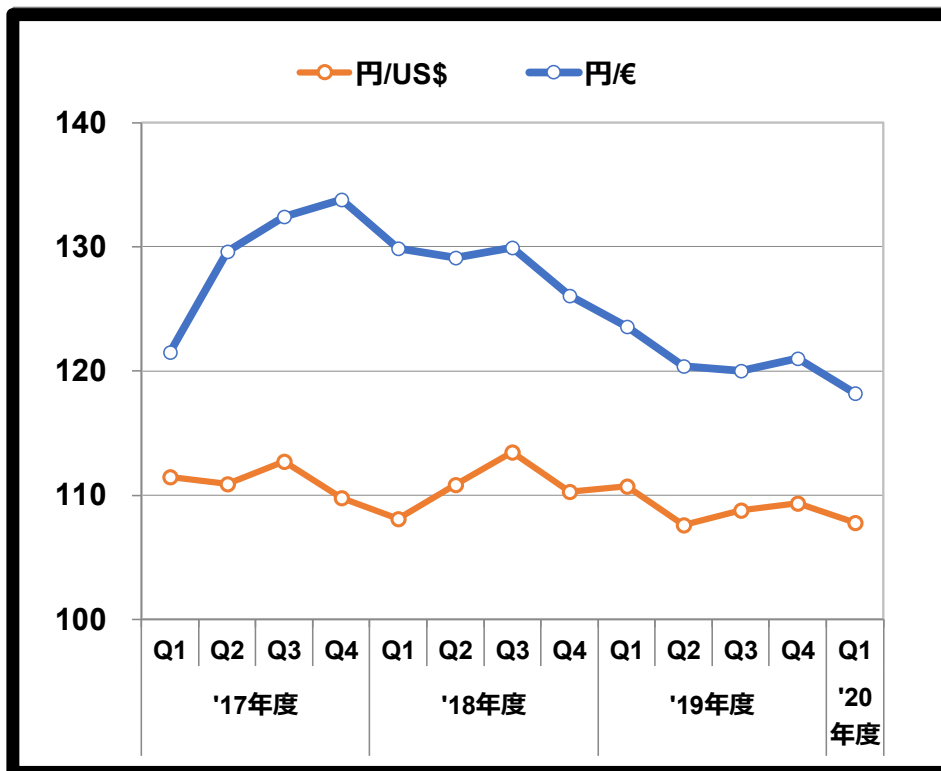
長引く米中貿易摩擦、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大等による経済悪化、原料及び市況の軟化に伴い、Q1業績は厳しい結果。なお新型コロナウイルスによる原料調達・生産への影響はなし。

エラストマー素材事業においては、自動車産業向けや一般工業品用途向けの需要が低迷するとともに、市況が軟化。前年同期と比較して売上高、営業利益ともに大幅に減少。

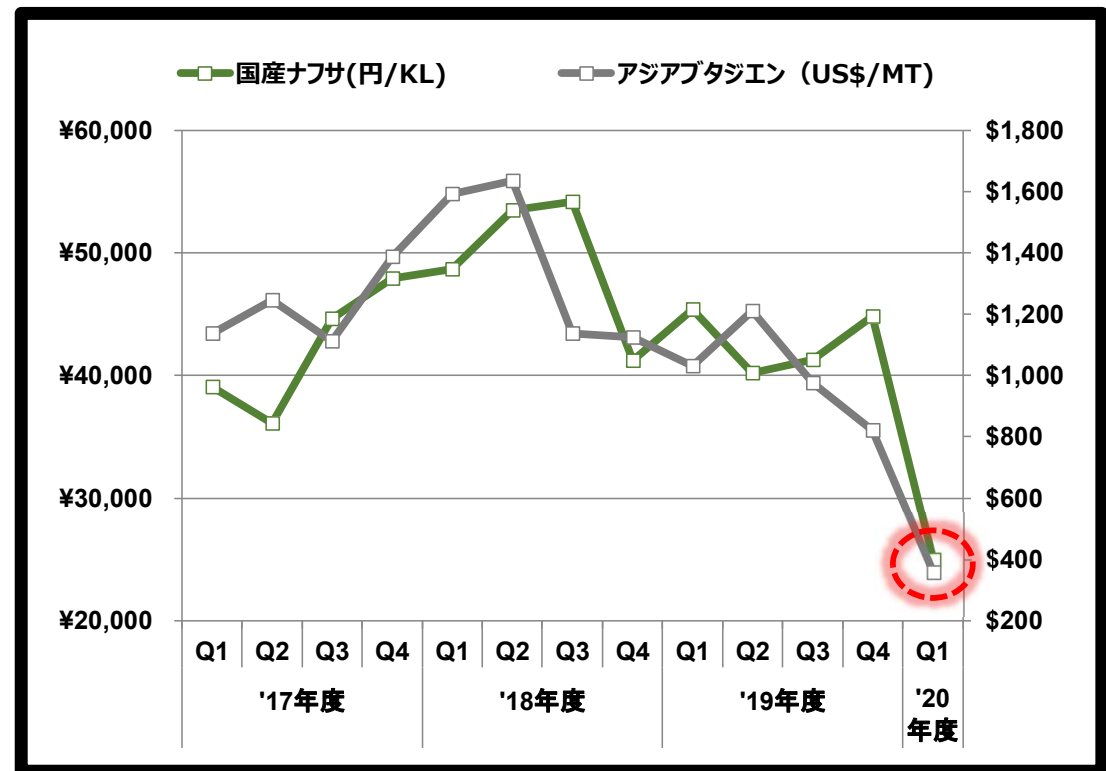
高機能材料事業の業績は、前年同期と比較して増収減益。高機能ケミカル関連では、化学品と電子材料分野の需要が堅調に推移する一方、トナーと電池材料分野の需要は減少。高機能樹脂関連は、売上高、営業利益ともほぼ前年同期並で推移。

セグメント		事業分野	2020年度Q1の概況（表中矢印はYoY売上高の増減を示唆）
エラストマー素材		合成ゴム	↓ 自動車産業、一般工業品用途向けが低迷
		ラテックス	↓ 医療用手袋向けは堅調、一般工業品用途向けが不振
		化成品	↓ 出荷量は前年同期並を維持するも、市況が軟化
高機能材料	高機能ケミカル	化学品	↑ ハンドソープ用など、香料用途向けが堅調に推移
		電子材料	↑ 半導体用途向けが堅調に推移
		トナー	↓ オフィスやホームプリント需要が縮小
		電池材料	↓ 車載用途向けは不振、民生品他用途向けは堅調だが全体では落ち込み
	高機能樹脂	→ 用途によって濃淡あるが全体はほぼ前年同期並で推移	
その他	商社部門他	↓ 世界経済悪化、市況軟化に伴い落ち込み	

【為替推移】



【主原料推移】



		2019年度 Q1	2019年度 Q4	2020年度 Q1	YoY 増減率	QoQ 増減率
為替	円/US\$	¥110.8	¥109.4	¥107.8	△3%	△1%
	円/€	¥123.6	¥121.0	¥118.2	△4%	△2%
主原料	国産ナフサ/KL	¥45,400	¥44,800	¥25,000	△45%	△44%
	アジアブタジエン/MT	US\$1,035	US\$822	US\$358	△65%	△56%

(単位：億円)	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期
	2019年度 Q1	2019年度 Q4	2020年度 Q1	YoY 増減	QoQ 増減
売上高	824	794	695	△129	△99
営業利益	83	46	43	△40	△3
経常利益	87	52	51	△36	△2
当期純利益	61	35	36	△25	+0

- 新型コロナウイルスの感染拡大による経済悪化、市況軟化を受けて前年同期比で売上高は129億円の減収、営業利益は40億円の減益。
- 前期（2019年度Q4）との比較においても売上高、営業利益は減少。

（単位：億円）

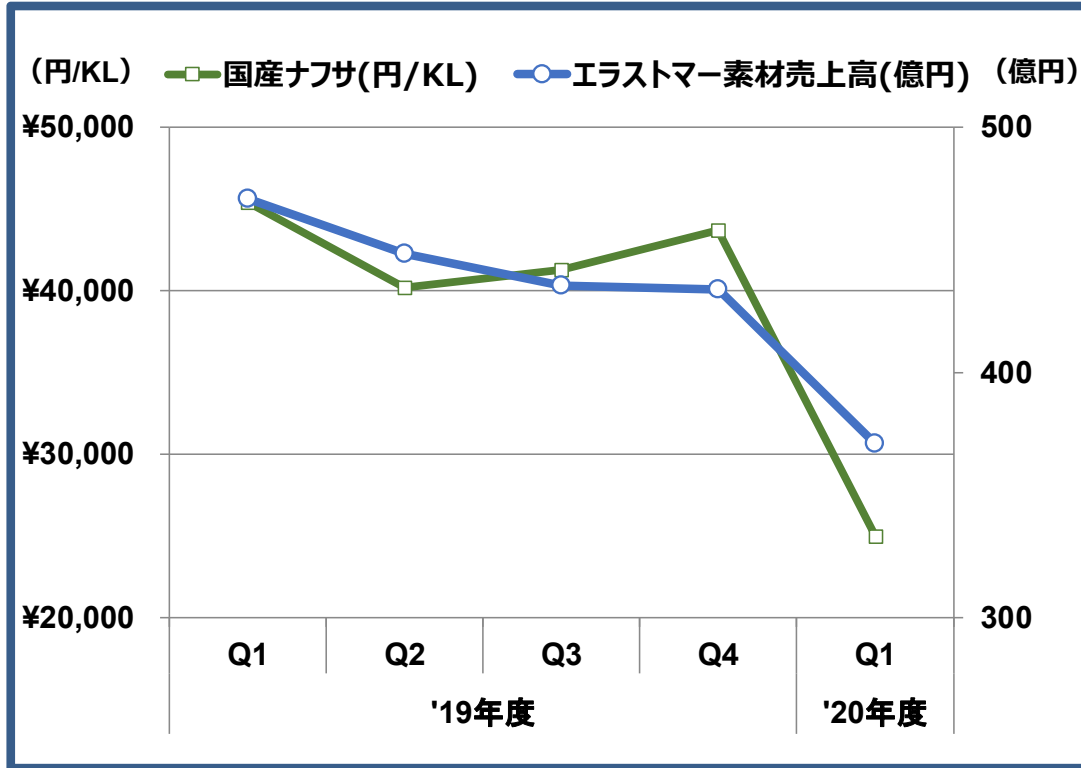
【売上高】	2019年度 Q1	2019年度 Q4	2020年度 Q1	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	471	434	371	△100	△63
高機能材料	223	239	223	+1	△15
その他の事業	136	127	106	△30	△22
消去等	△5	△6	△5	0	0
売上高合計	824	794	695	△129	△99

【営業利益】	2019年度 Q1	2019年度 Q4	2020年度 Q1	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	35	11	△1	△36	△12
高機能材料	51	41	48	△2	+7
その他の事業	4	4	2	△2	△2
消去等	△6	△10	△6	0	+4
営業利益合計	83	46	43	△40	△3

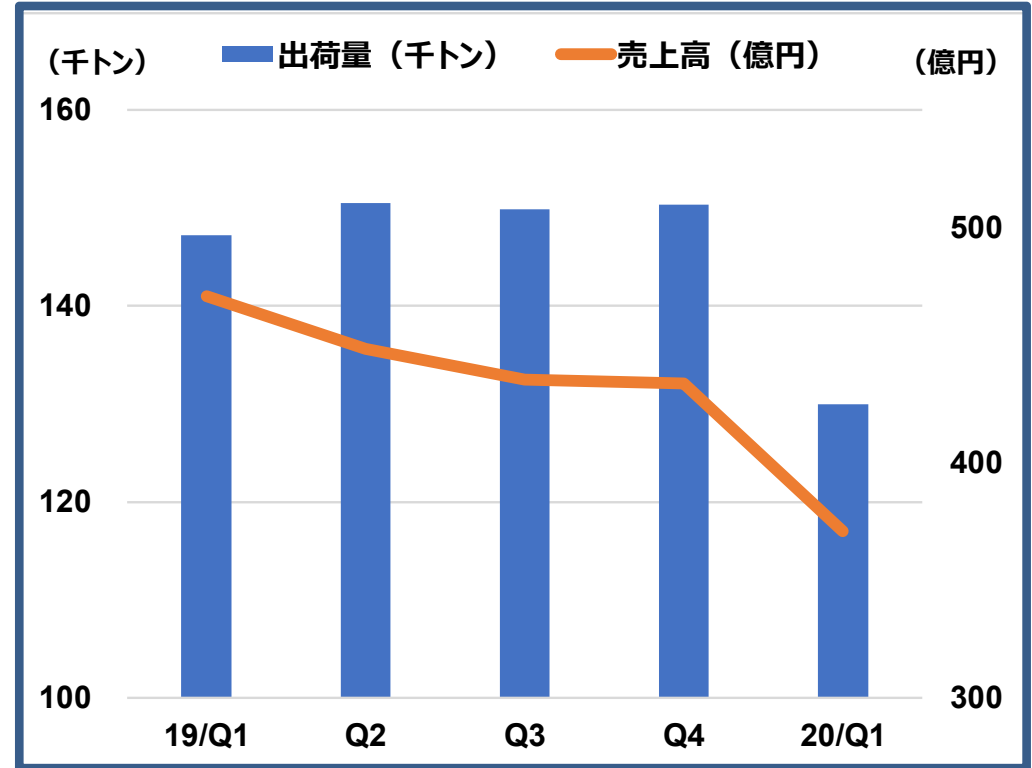
- エラストマー素材：売上高、営業利益とも大きく減少。
- 高機能材料：ほぼ前年同期並だがQoQは減収増益。

■ 2020年度Q1 決算のポイント	P.2
■ 同 各事業分野の概況	P.3
■ 同 事業環境（為替・主原料）	P.4
■ 同 業績サマリー	P.5
■ 同 P/Lの概要（セグメント別）	
● エラストマー素材	P.8
● 高機能材料	P.13
● その他	P.19
■ 同 B/Sの概要	P.21
■ 同 C/Fの概要	P.22
■ 2020年度上期業績予想	P.24
■ 今後の対応	P.25

【国産ナフサ価格とエラストマー素材の売上高】



【合成ゴム出荷量と売上高】

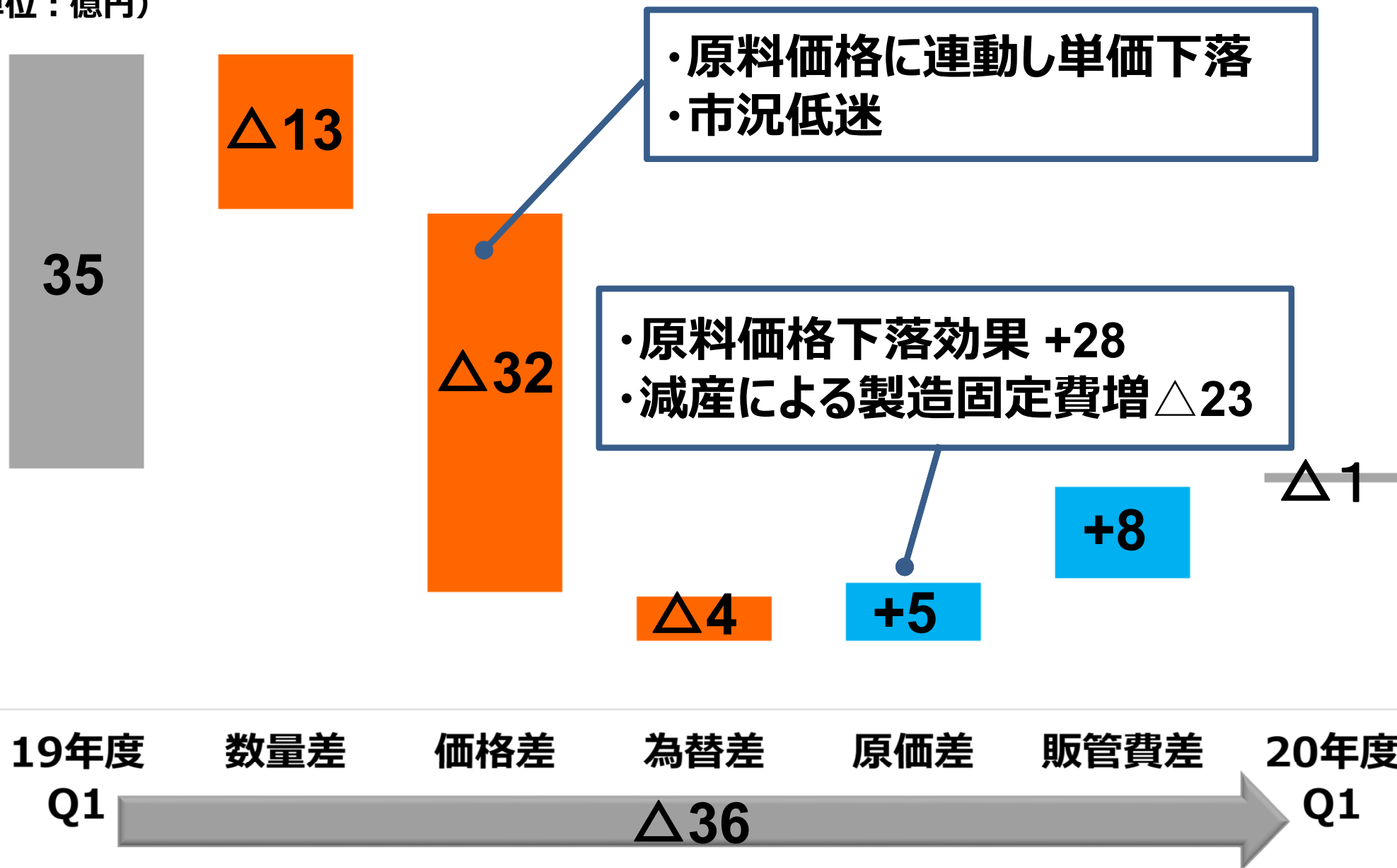


- エラストマー素材の売上高は国産ナフサ等の主原料価格とほぼ連動。
- 合成ゴムの出荷量は20年Q1になって急激に落ち込み。

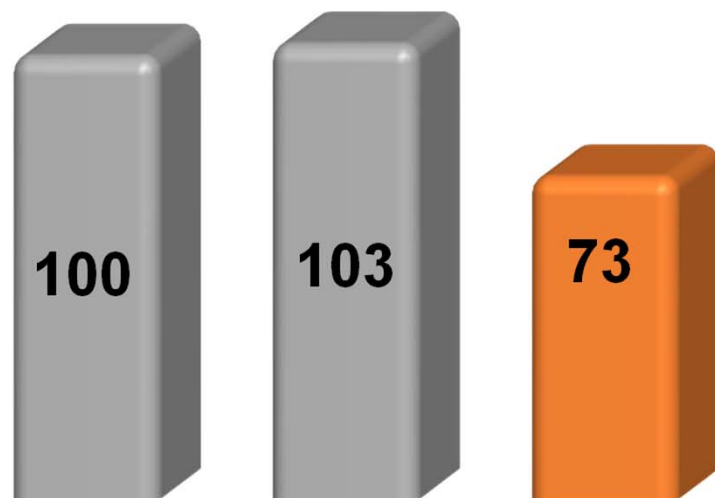
(単位：億円)	2019年度 Q1	2019年度 Q4	2020年度 Q1	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
販売数量（千トン）	147	150	128	△ 19	△ 13 %	△ 23	△ 15 %
合成ゴム	85	88	65	△ 21	△ 24 %	△ 23	△ 27 %
ラテックス	30	28	28	△ 2	△ 8 %	0	0 %
化成品	32	34	35	4	11 %	1	3 %
売上高	471	434	371	△ 100	△ 21 %	△ 63	△ 14 %
合成ゴム	328	292	245	△ 83	△ 25 %	△ 47	△ 16 %
ラテックス	45	40	33	△ 12	△ 27 %	△ 7	△ 18 %
化成品	92	90	81	△ 11	△ 12 %	△ 10	△ 11 %
その他・消去	7	12	13	7	100 %	1	11 %
営業利益	35	11	△ 1	△ 36	△ 103 %	△ 12	△ 111 %
営業利益率	7%	3%	0%				

- 合成ゴム : 自動車産業、一般工業品用途等の需要減に加え原料連動で価格下落
- ラテックス : 化粧品材料、一般工業品用途等の需要減に加え原料連動で価格下落
- 化成品 : 販売数量は維持するも、市況軟化により価格下落

(単位：億円)

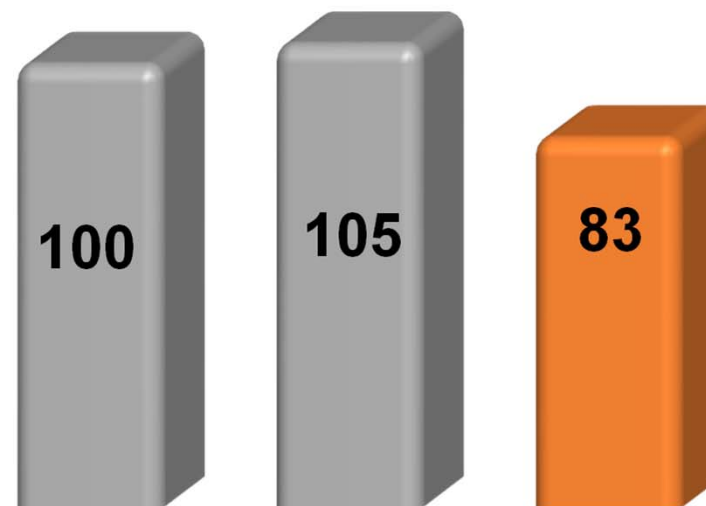


【汎用ゴム】



19年度Q1 19年度Q4 20年度Q1

【特殊ゴム】



19年度Q1 19年度Q4 20年度Q1

(19年度Q1の出荷量を100とした場合の指数)

主にタイヤ用途向けの汎用ゴム、自動車産業および一般工業品用途向けの特殊ゴムともに大幅な落ち込み

■ 2020年度Q1 決算のポイント	P.2
■ 同 各事業分野の概況	P.3
■ 同 事業環境（為替・主原料）	P.4
■ 同 業績サマリー	P.5
■ 同 P/Lの概要（セグメント別）	
● エラストマー素材	P.8
● 高機能材料	P.13
● その他	P.19
■ 同 B/Sの概要	P.21
■ 同 C/Fの概要	P.22
■ 2020年度上期業績予想	P.24
■ 今後の対応	P.25

(単位：億円)

	2019年度 Q1	2019年度 Q4	2020年度 Q1	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
売上高	223	239	223	1	0 %	△ 15	△ 6 %
高機能ケミカル	67	76	70	4	6 %	△ 6	△ 8 %
高機能樹脂	142	147	141	△ 1	△ 0 %	△ 6	△ 4 %
メディカル他	14	16	12	△ 2	△ 15 %	△ 3	△ 22 %
営業利益	51	41	48	△ 2	△ 5 %	7	18 %
営業利益率	23%	17%	22%				

■ 高機能ケミカル関連

化学品（主に香料用途）、電子材料の需要は堅調に推移。

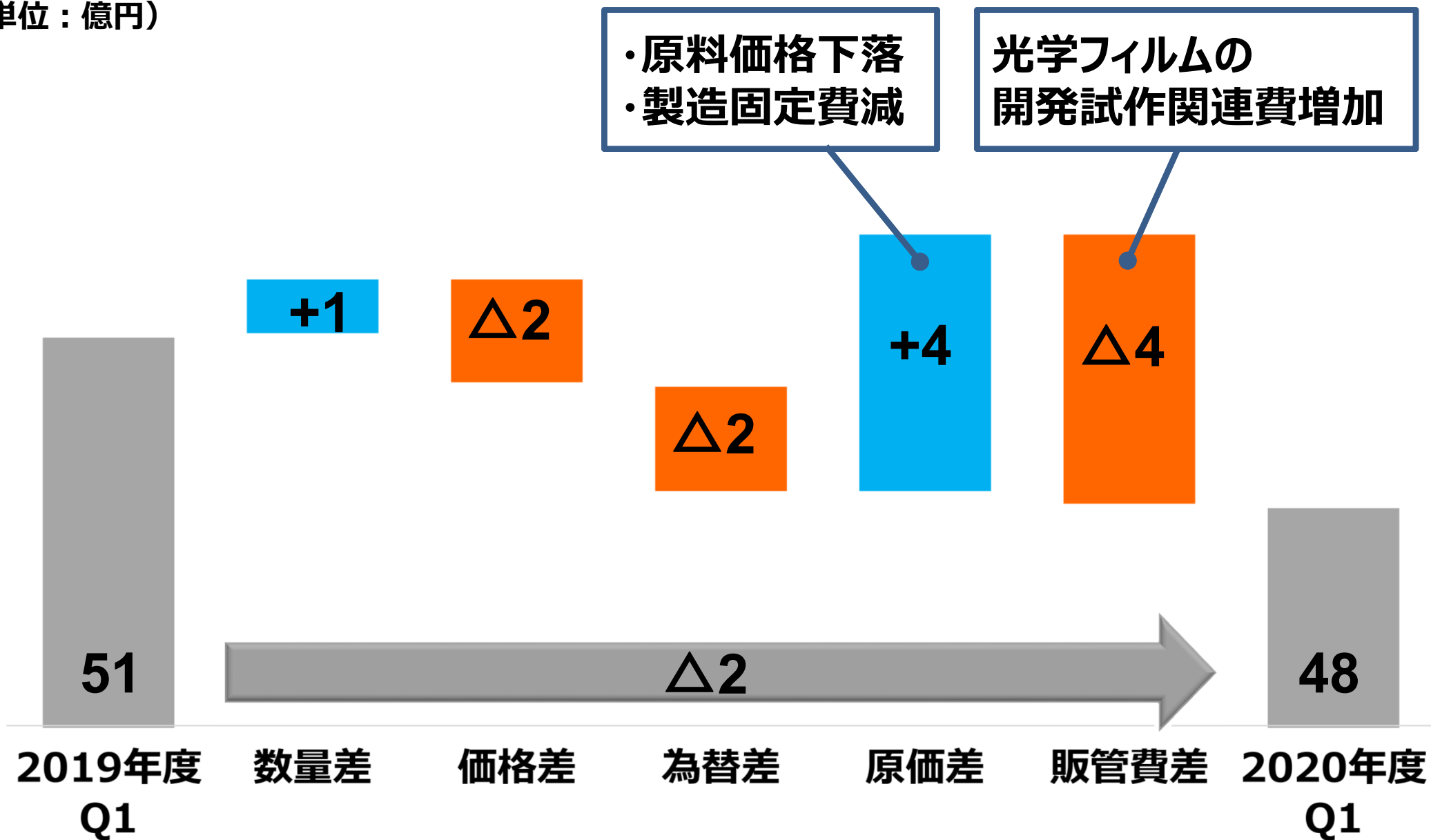
一方でトナー、電池材料は新型コロナウイルスの影響等で需要が減少。

前年同期比で売上高は増加。

■ 高機能樹脂関連

光学樹脂、光学フィルムの需要は堅調に推移するも、計画停電の影響等で出荷量を調整したため、売上高は前年同期並。

(単位：億円)



	YoY	QoQ
香料用途	151%	107%
特殊溶剤他	148%	75%
全体	150%	89%

- 全体：前年同期は主力工場の定期検査により生産量見合いの出荷。そのためYoYでは大幅な出荷量増となった。
- 香料用途向け：QoQについても堅調に推移。
- 特殊溶剤他向け：QoQは生産工場の計画停止のため出荷量を調整、需要は底堅く推移。

	YoY	QoQ
EV向け	77%	89%
うち中国向け	58%	99%
民生他向け	123%	141%
全体	90%	104%

■ EV向け

新型コロナウイルスの影響により需要減。中国向けYoYの乖離は、前年同期に税優遇措置による駆け込み需要があったため。

■ 民生他向け

テレワークを背景としたモバイル端末向けの需要増、再生エネルギー導入計画推進によるESS（蓄電システム）向けの需要増。

	YoY	QoQ
中小型向け	93%	101%
大型向け	95%	94%
全体	95%	95%

■ 中小型向け

YoYではスマートフォン向けが低調であったが、テレワークを背景としたパソコン、モバイル端末向けの需要が下支え。QoQも堅調に推移。

■ 大型向け

生産工場所在地の3月計画停電により、生産量見合いに出荷量を調整。その影響でYoY、QoQとも微減。需要そのものは前年同期並で推移。

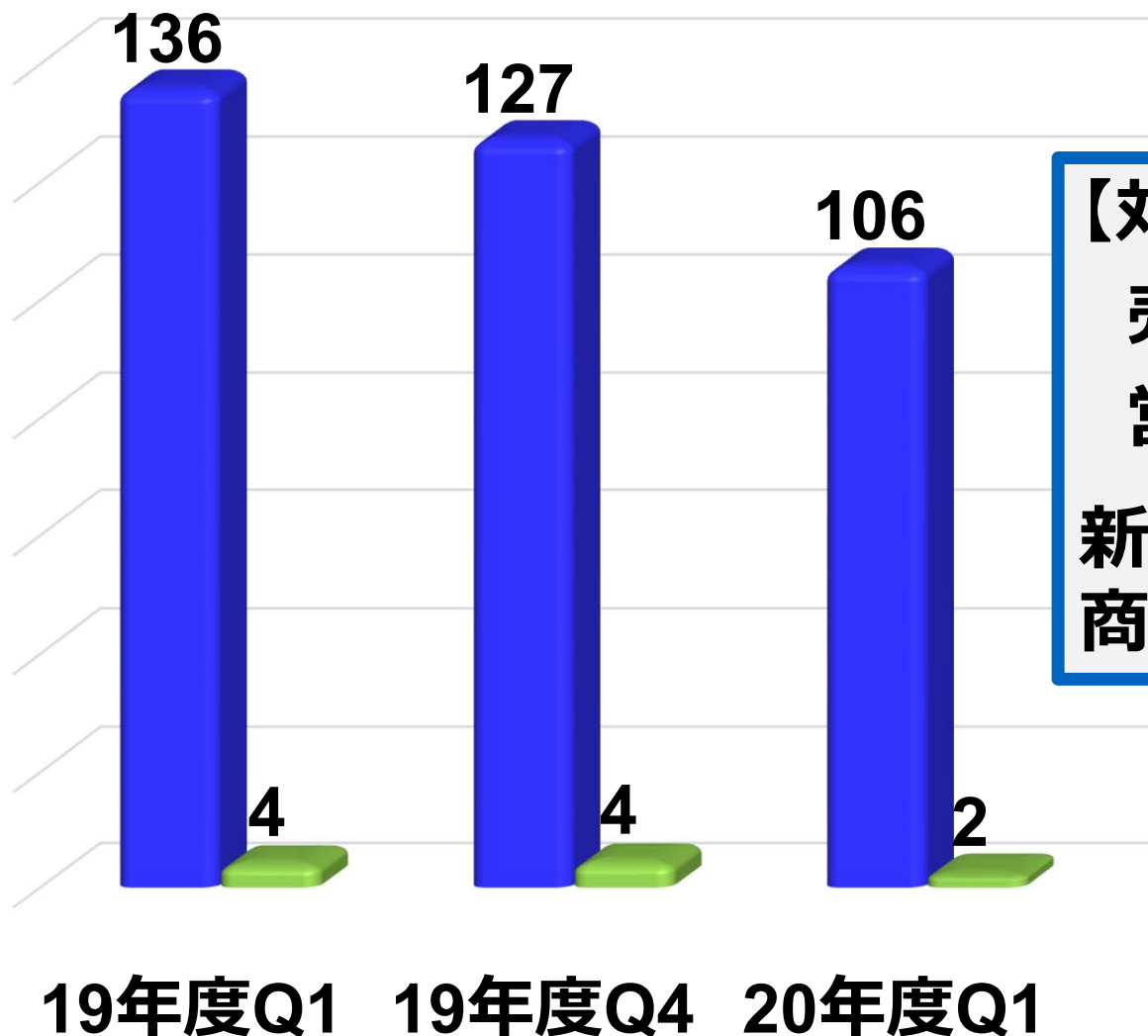
	YoY	QoQ
光学用途	84%	75%
医療、その他	126%	99%
全体	115%	93%

■ 光学用途向け

21年7月完工に向けた能力増強工事、同年に予定されている定期検査に伴う計画停止に向けて、出荷量を調整。

■ 医療、その他用途向けも堅調に推移しており、供給はタイトな状況。

(単位：億円)



【対前年同期比】

売上高 : Δ 30億円

営業利益 : Δ 2億円

新型コロナウイルスの影響で
商社部門、RIM事業が落ち込み

■ 売上高 ■ 営業利益

■ 2020年度Q1 決算のポイント	P.2
■ 同 各事業分野の概況	P.3
■ 同 事業環境（為替・主原料）	P.4
■ 同 業績サマリー	P.5
■ 同 P/Lの概要（セグメント別）	
● エラストマー素材	P.8
● 高機能材料	P.13
● その他	P.19
■ 同 B/Sの概要	P.21
■ 同 C/Fの概要	P.22
■ 2020年度上期業績予想	P.24
■ 今後の対応	P.25

総資産3,937億円
(△114億円)

【流動資産】 △156億円

◆現預金 △62億円

◆売掛債権 △70億円

【流動負債】 △150億円

◆買入債務 △127億円

流動資産
1,988
(△156)

流動負債
974
(△150)

固定負債 311 (△13)

純資産
2,652
(+48)

固定資産
1,949
(+42)

【純資産】 +48億円

◆純利益 +36億円

利益剰余金 +22億円

◆財務指標

・有利子負債 210億円 (-)

・自己資本比率 66.6% (+3.1%)

・D/Eレシオ 0.08 (-)

流動比率 : 204%

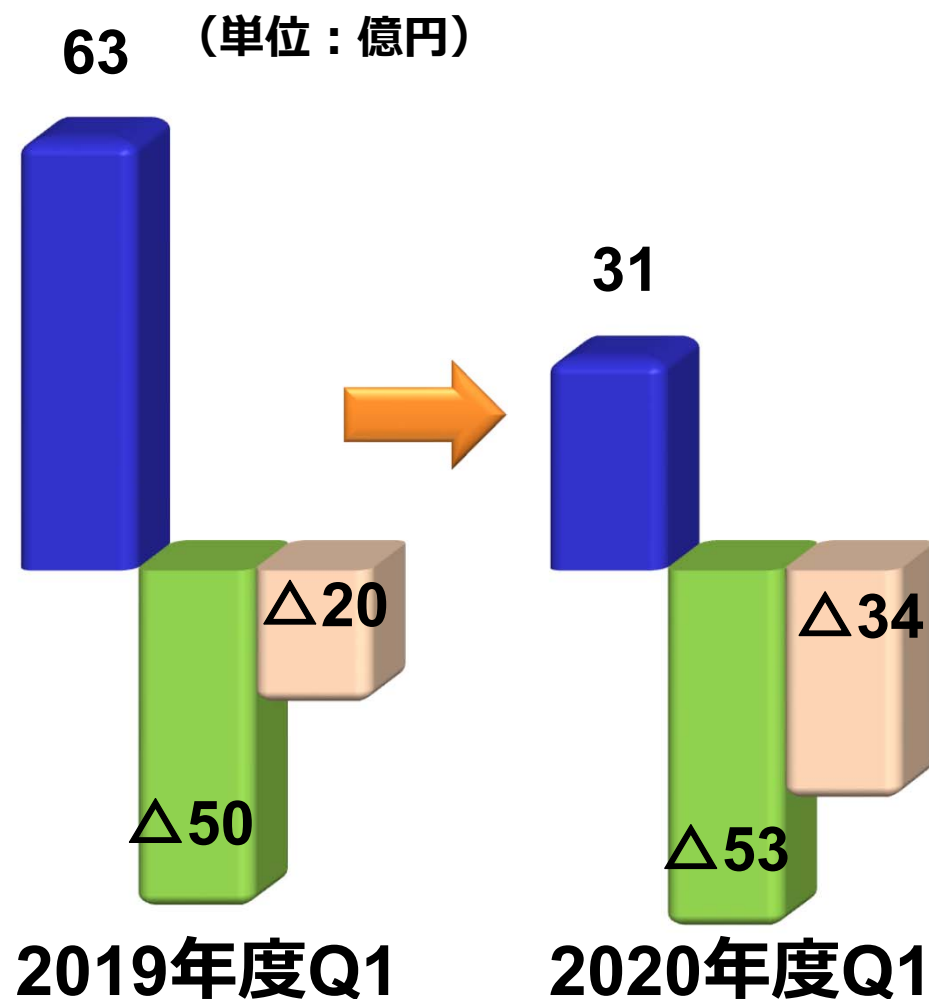
手元流動性比率 : 1.1ヵ月

【固定資産】 +42億円

◆資本的支出 +27億円

◆減価償却費 △37億円

◆投資有価証券 +59億円



(単位：億円)

	2019年度Q1	2020年度Q1
営業CF	63	31
投資CF	△ 50	△ 53
フリーCF	13	△ 22
財務CF	△ 20	△ 34
CF	△ 7	△ 56

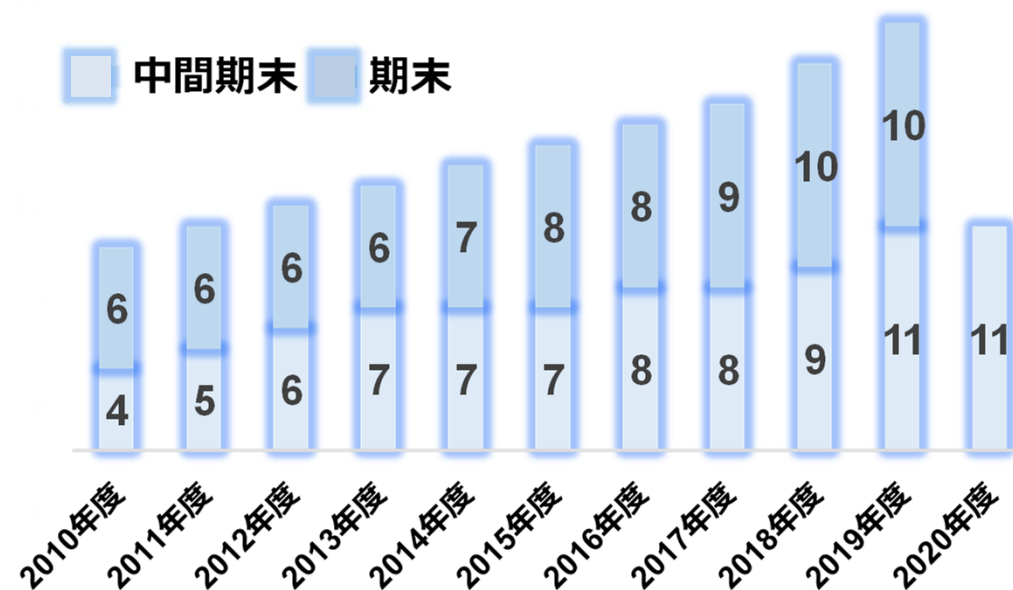
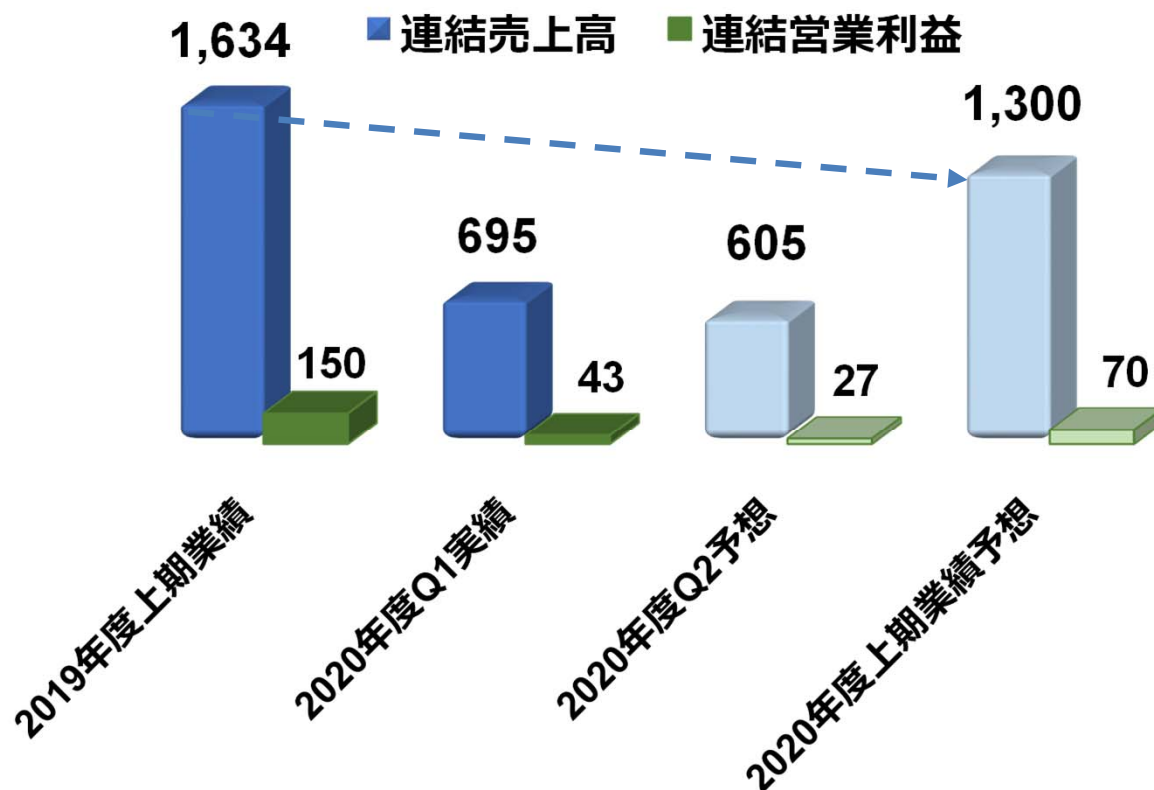
- ◆ 営業CF : △ 32億円
税引前利益減少 △ 34億円
- ◆ 投資CF : △ 3億円
光学フィルム設備投資増等 △ 14億円
- ◆ 財務CF : △ 14億円

■ 営業CF ■ 投資CF ■ 財務CF

■ 2020年度Q1 決算のポイント	P.2
■ 同 各事業分野の概況	P.3
■ 同 事業環境（為替・主原料）	P.4
■ 同 業績サマリー	P.5
■ 同 P/Lの概要（セグメント別）	
● エラストマー素材	P.8
● 高機能材料	P.13
● その他	P.19
■ 同 B/Sの概要	P.21
■ 同 C/Fの概要	P.22
■ 2020年度上期業績予想	P.24
■ 今後の対応	P.25

【売上高・営業利益予想】（単位：億円）

【配当金の推移】（単位：円）



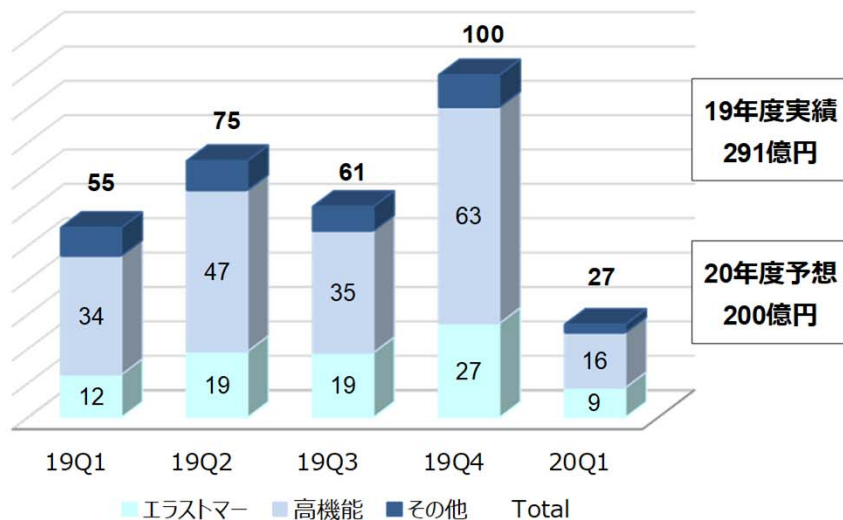
■ 2020年度上期業績は、売上高1,300億円、営業利益70億円と予想
 ■ 中間期末の配当金は11円00銭（対前年同期実績±0円）

新型コロナウイルスの感染拡大や米中関係の緊迫化等、世界経済をめぐる不安要因は拭えず、『緊急対策本部』が主体となって不測の事態への対応を継続。

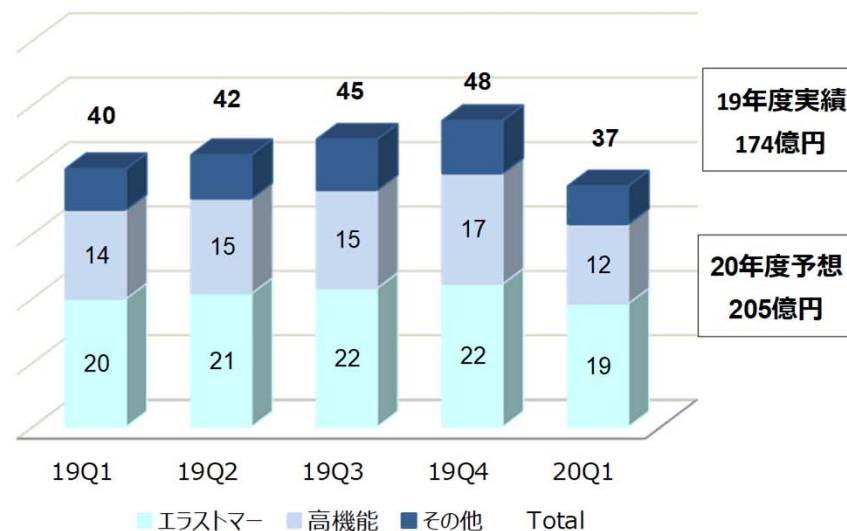
国内外全ての事業所、製造拠点において感染予防を徹底し、引き続きサプライチェーンの維持及び従業員やその家族等の健康・安全の確保に努める。

2021年3月期の連結業績予想および配当予想については、現時点で通期の合理的な業績予想の算定が困難なため未定とさせていただきます。業績予想が算定でき次第、速やかに公表いたします。

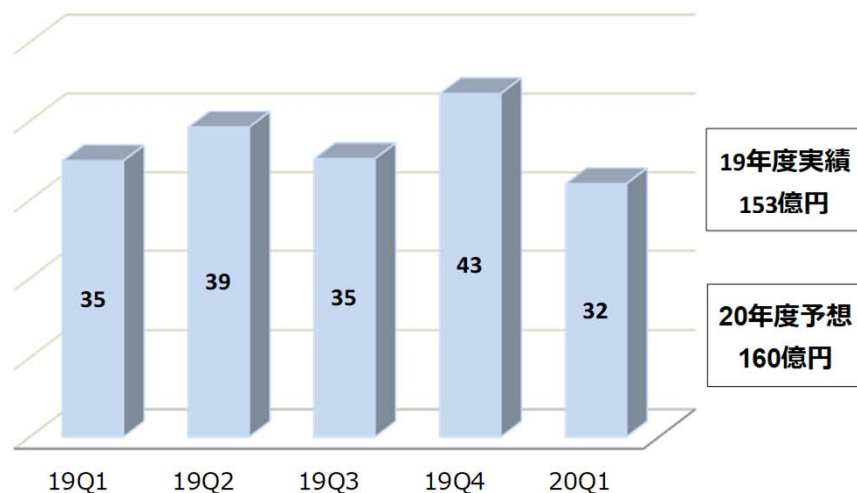
資本的支出 推移 (単位：億円)



減価償却費 推移(単位：億円)



研究開発費 推移(単位：億円)



本資料に掲載されている当社の計画や見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。
実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果になる場合があります。

**2020年度 第2四半期決算
報告予定日**

2020年10月30日（金）

※上記の予定は、都合により予告なく変更する場合がございます

ZEON

日本ゼオン株式会社

以 上